

追悼  
船井幸雄

（魁人の残したもの）



先生の超人的な記憶力は、私が今更言うまでもないのですが、話の中に出てくる人の姓と名をフルネームで必ずおっしゃるのです。人の名前は間違ったことがないとおっしゃっていた先生が、私の名前「春義」を「義春」と書かれてしまったのです。

会社名が「タカヨシ」ですから間違う方は時々ありますが、先生は一瞬「しまった」と思われたようでした。

私は下手な短歌や川柳を時々作っていますので、瞬間に「これは雅号として頂きます。先生からつけて頂いた雅号は私の生涯の誇りです」と申し上げました。

その後先生は講演の中で、「間違えた私に、恥をかかせなかつた高橋社長には生涯頭が上がらない」と話をされ、本にも書いておられますが、思いがけず雅号を戴けた私は、本当に心から嬉しく感謝をしております。

思い出は走馬灯のように尽きませんが、今は唯、恩師である船井幸雄先生の御冥福を心よりお祈り申し上げるばかりです。

よしはる

宝喜美子（たからきみこ） ゆめの家代表

## 恩師の死 愛と感謝を込めて

私の恩師、師匠である、船井先生が天国へ旅立ちました。

先生との出会いは、沖縄の御嶽を案内して欲しいという依頼からのスタートでした。着付け教室の生徒さんの紹介でした。私は喜んで御嶽の案内をさせていただきました。

船井先生が有名な経営コンサルタントで、本もたくさん書かれている方とも知らずの初めての出会いのスタートです。

無事に沖縄の御嶽の案内をして、空港までお見送りをさせていただきました、すぐ本屋さんへ行くと、ビジネス書のコーナーに、船井先生の本がたくさん置いてありました。一冊ずつ先生の本を読ませていただき、経営や人間力など、ご指導いただきました。

それから、沖縄にお越しになる機会には、必ずお電話をいただき、空港までお迎えにゆき、車中でいろいろと教えていただきました。

「親友の宝喜美子さん」と本に書いてもらったり、『エゴからエヴァへ』（PHP研究所 1995年）という本にも、「うれしかっ





たこと」という題で私のことを紹介してもらったり、たくさんの思い出が脳裡を駆け巡ります。先生の講演会や勉強会へ参加させてもらい、本当にこの20年お世話になりました。

先生のご自宅が高輪にあるころ、自宅へ呼んでいただいた時のことです。

高輪ホテルで待ち合わせをしました。お電話で、高輪ホテルと聞いたはずの私は、自分の思い込みで、高輪プリンスホテルと勘違いをして、待ち合わせの時間を過ぎて、先生と奥様に会うことができず、私の宿泊していた品川プリンスに、あきらめて戻り、落ち込んでいたら……秘書の方から私の宿泊しているホテルを聞いて、先生自らお電話くださり、優しく、待ち合わせに来ない訳を訊いてくださりました。(その時に、訳を尋ねることの大切さ、愛を先生から学びました。)

ホテルを間違ひ、船井先生と違うホテルで、私は「右往左往してました」と報告。その時に、船井先生は、「ご飯食べたかい？」と訊いてくださいました。「まだです」と申し上げたら、「私と妻はすんだので、よかつたら、今からタクシーにのり、いらっしやい」と自宅に呼んでいただきました。

私がタクシーから降りるところで、先生は、ラフな格好で私のタクシーを待っていてくださいました。先生のお顔を拝見して、涙が出そうなくらいありがたく……感激した思い出です。私のために、3人で食事をするために予約をしていたようで、本当に申し訳なく感じた私でした。奥様が手料理を準備してくださり、船井先生がご自宅でいただいている、体に優しいお食事を

いただきました。奥様の愛、船井先生の大きな愛をいただいた瞬間でした。

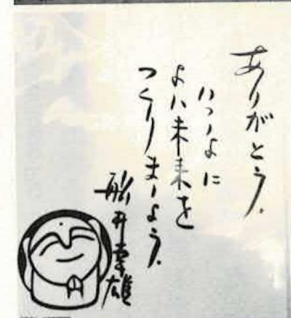
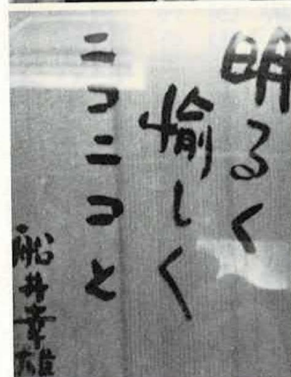
食事をいただきながら、先生は日本酒を美味しそうに飲んでいたのでおもしろいと思います。帰りは奥様に見送っていただきました。

このようにプライベートなお付き合いをさせていただき、船井先生から頂いた、たくさんたくさんさんの愛の種を、今度は弟子である私が、先生の愛の種を咲かせます。

それが船井先生への御恩返し、船井先生への御供養だと思えます。

計報を知った日は、あまりの悲しさに、あまりのショックに動揺しましたが、これからの人生、先生からご指導いただいたことを世の中へ広げて、世界が平和で愛の世界になれるように働くことを先生に誓います。

船井先生と天国で再会する日に、愛を広げましたと報告できる自分磨きをします。



から、先生  
の安らかな  
旅立ちを祈  
ります。